体育教員志望の学生の体罰に関する意識調査

加茂　亮祐　（生涯スポーツ学科　学校スポーツコース）
指導教員　柴田　俊和

キーワード：体罰，体育教員志望，学生

１．緒言

学校教育においての体罰に関する記述は，1879（明治 12）年の教育令第 46 条に「凡学校ニ於テハ，生徒ニ体罰（殴チ或ハ縛スルノ類）ヲ加フヘカラス」と明記されている．ここから日本では一貫して体罰は禁止となっている．しかし，日本で体罰が無くなった年は一回もない．

体罰というと，主に体育科の教員が部活動中に行っているイメージがある．

なぜ体罰は起こるのか，なぜ部活動時ばかりの体罰が報道されるのかを疑問に思った．授業時での体罰と部活動時での体罰の意識の差はあるのか．また，体罰を肯定する意識はどこから来るものなのかを調べたいと思いこの研究を進めることを決めた．

２．研究方法

本学 2～4 年次生で教職を目指す学生 256 人を対象に選択記述式のアンケートを行った．過去に体罰を受けたことがあるのか･過去に誰かが体罰を受けているのを見たことがあるかの 2 つのカテゴリーと，授業時の体罰と部活動時の体罰をどう思うのか，また体罰をなくすためにはどうすればよいのかを記述してもらった．

３．結果と考察

授業時の体罰に関しては全体の 24%（62 人）の人が肯定し，74%（190 人）の人が否定していた．残りの 2%（４人）はその他と回答していた．部活動時の体罰に関しては全体の 38%（97 人）の人が肯定し，60%（154 人）の人が否定していた．残りの 2%（5 人）の人はその他と回答していた．

部活動別では，授業時と部活動時との体罰に対する意識の差が大きかったのはバレーボール部だった．逆に意識の差が少なかったのは陸上競技部であった．

調査結果では過去の体罰に対する出来事は，授業時と部活動時の体罰に対する意識の差にあまり関係ないことが分かった．体罰を肯定する人の特徴は，体罰を受けたことにより競技成績が上がったと思えば，体罰を肯定する傾向であった．体罰を否定する人の特徴は，過去に体罰を受けたことがない，または，体罰を受けたことにより体罰を行った者に対する不信感が高まったりしたら否定する傾向であった．

体罰はなぜ起こるのかという質問に対しては「体罰は熱心さの表れで，人格形成のための愛のむちと考えられるから」という回答が 1 番多かった．集計の結果から，「生徒のため」という意識があると，ある程度は体罰をしても仕方ないと思う原因になると考察された．

体罰を防ぐためにはどうすればよいのかという質問に対しては，「体罰を防ぐためには教員の指導力を向上させること」が 1 番有効であると考える人が多いことが分かった．教員の指導力が足りずに，指導しても思い通りにいかないところから体罰が生まれる．そうさせないために指導力を向上させる必要があるのだと考える．

４．まとめ

体罰は生徒を思う気持ちがあるから起こるものであると考える．教師は常に生徒をより良い方へと思って指導しているが，思い通りにならないため不満が募り，それを上手く消化できないため体罰が起こる．授業時では言って聞かせることが大切であると思う人が多いが，部活動では多少の体罰なら仕方ないと思う人が授業時に比べて多いことが分かった．

引用・参考文献

1. 安田勉（1999）体罰体験とその意識 - 大学生の意識調査から - ，青山保健大学紀要 1（2），pp.151-162.
2. 文部科学省（2013）学校教育法第 11 条に規定する児童生徒の懲戒・体罰等に関する参考事例.